

事業仕分け（7月27日～29日）の結果

継続5・見直し8

民営化や経費削減ばかりの仕分けでいいのか



名古屋市は7月27日～29日、暮らしの予算にかかわる事業費削減を市民の判定に委ねる「事業仕分け」を行いました。判定結果は「継続5」「見直し8」という結果でした。

市長の思惑に誤算も

27日の「ポンプ所維持」では「業務の繁閑に差がある……他の業務ができないか」と「市民の生命と安全を守るため、……他の業務に従事することは難しい」との論争でしたが、「閑散期に何かできないか」というコーディネーターの誘導にもかかわらず、判定結果で「閑散期には他の業務に従事」と判定した人は2人でした。

大きなムダを放置したままの議論に

28日の「鳴海プール」の議論では「赤字」の削減が議論されるばかりで、最後には「市民の安全より優先される事業か」という意見まで飛び出しました。他の仕分け議論でも「財源がない」と繰り返し強調されました。「名古屋城天守閣の木造再建」などにはメスを入れず、市民に必要な事業を「安全」を理由に削ろうとする議論の仕方でいいのでしょうか。

事業の必要性や拡充が反映しない

29日には「衛生研究所」などが議論されました。必要性は認めつつ、どう改善するかが課題になっても、その方向性が議論できない、事業の必要性がなおざりにされたままの議論がほとんどでした。

他の事業でも民営化や財政問題に終始するなど仕分けの狙いが市民の暮らしを犠牲にして財源を開発にまわすという目的が浮き彫りにされました。

「ムダ」な仕分けはやめよ

名古屋市より早く1年事業仕分けをした札幌市では、「仕分け時間が短い」「利用者の声が反映されない」「削減ありき」という批判が出され、翌年度には、市民の多様な意見を反映できる「ワークショップ

プ」という手法に切り替えました。

市民の願いを「財政難」を理由に押しつぶそうとする「仕分け」はやめ、市民の願いをどうやって実現するかを考えるべきではないでしょうか。

2012年度事業仕分けの結果（2012年7月27日～29日）

事業	結果	内訳			
		廃止・撤退	民営化	見直し	継続
ポンプ所維持	見直し	0	0	11	8
大須駐車場	見直し	9	8	1	1
子ども・子育て支援センター	見直し	0	1	13	2
鳴海プール	見直し	3	5	6	5
公園維持管理	見直し	0	0	12	7
広報なごや、テレビ広報、新聞等広告、ラジオ広報	見直し	0	0	13	5
公式ウェブサイトの管理運営	見直し	0	0	11	7
シルバー人材センター事業への補助	継続	1	0	4	13
環境学習センターリサイクル推進センター	見直し	2	0	17	0
工業研究所	継続	2	1	6	10
ギャラリー矢田	継続	2	0	1	16
市政資料館	継続	3	0	4	12
衛生研究所	継続	1	0	4	14

大須駐車場は廃止・撤退が多数でしたが過半数に満たず、総意として「見直し」に。



「市民犠牲許すな連絡会」が、市役所前で宣伝行動。日本共産党市議団も激励（右から山口、わしの、田口市議）